

宮島会長と語る会

12月11日〔 8:40～ 9:00〕 第1会場（ダイヤモンドB）

『一在宅を含めた病棟検査技師について』



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長
宮島 喜文

司会：平成28年度中部圏支部医学検査学会長 油野 友二

医療現場では、高度化、専門化が進む中で、我々の臨床検査領域も従来の中央検査室を中心とした業務から、患者を中心としたチーム医療にメディカルスタッフの一員として活躍できる技師の育成に取り組まなければならない。検体採取が可能となったことにより、患者に

対して検査前説明、検体採取、適正な検査、報告書（検査所見）、検査結果の説明までの一連の検査業務に責任を持ち、主治医の診断、治療にスムーズに繋げることが責務であると考えます。

一方、科学技術の進歩は目覚ましく、第4次産業革命と言われるロボット化や人工知能が臨床検査の領域に導入されることも遠い未来の話ではない。大きく変わる技術革新も視野に入れ、生涯教育を積んでいく必要があるが、日々の業務においては検査データ全般について解析し、患者の病態として捉え、常に客観的判断が下せる能力を身に着けることが望まれる。